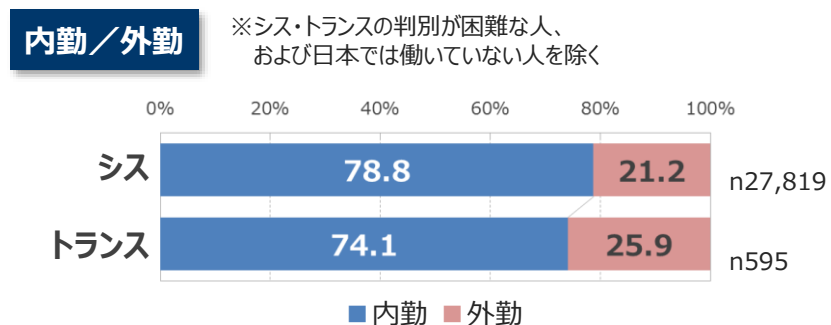
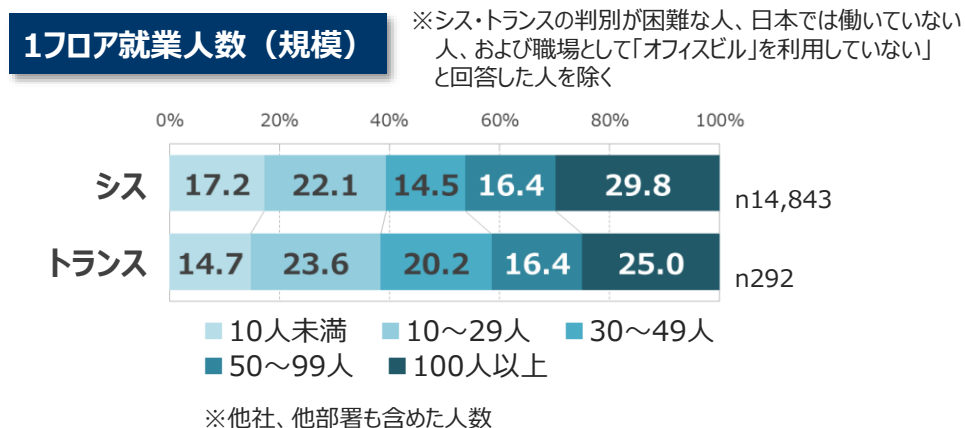
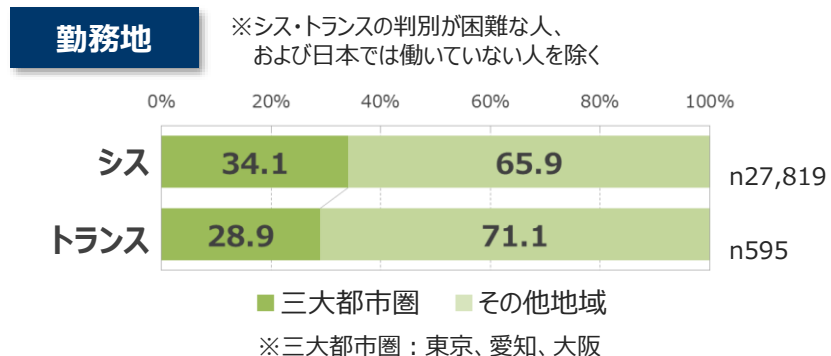
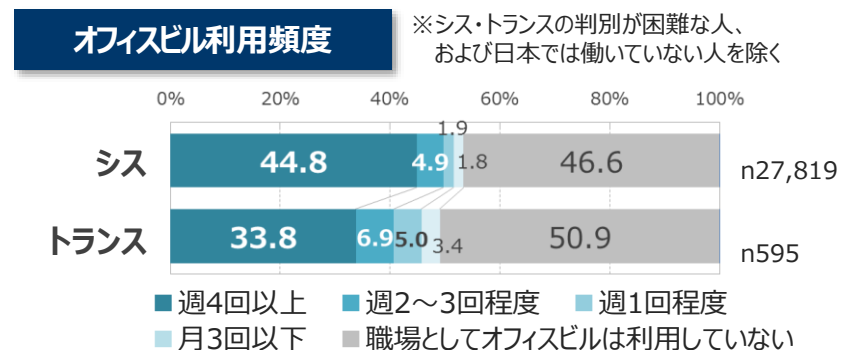
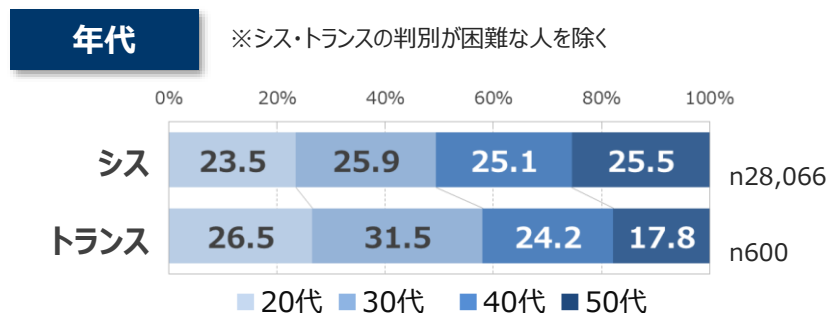


## 4. 補足資料

# 補足資料：回答者の属性情報（年代構成と勤務地、就業状況）

## STEP 1 の回答者属性を示す。



# 補足資料：サンプリング一覧、STEP2への抽出条件

## 【サンプリング一覧】

		STEP1 調査		STEP2 調査	
		パネル調査			
		サンプル数	割合	サンプル数	割合
アンケート回答数		30,000	—	—	—
回答者分類	シスジェンダー	28,066	93.6%	824	83.1%
	トランスジェンダー	600	2.0%	167	16.9%
	不明(注1)	1,334	4.4%	—	—
合計		30,000	100.0%	991	100.0%
		オープン調査			
		サンプル数	割合	サンプル数	割合
トランスジェンダー回答数(注2)		215	100.0%	132	100.0%

注1：以下に該当する人を指す

- ・出生時の戸籍の性別が「男性」かつ性自認が「どちらかといえば男性」と回答した人
- ・出生時の戸籍の性別が「女性」かつ性自認が「どちらかといえば女性」と回答した人
- ・性自認を「答えたくない」と回答した人

注2：

オープン調査はトランスジェンダー回答者補完が目的で実施したため、集計はトランスジェンダー回答者のみで実施。そのため、オープン調査回答者に含まれた、シスジェンダー18サンプル、不明65サンプルを除外。

※シスジェンダーは、性年代別均等割付で計824人抽出

## 【STEP2 の調査への抽出条件】

オフィスビルの利用頻度	主に働いているフロア的人数	主に利用しているオフィスビルに設置されているトイレの種類	職種（以下の職種を除く※）
週に1回以上勤務者	同フロアに50人以上いる ※シスジェンダーのみ	利用ビルのトイレ設置状況が「わからない」と回答した人を除く	接客・販売 / 工場のライン 電話オペレーター・窓口業務 専業主婦・主夫 / 学生・生徒 / その他

※職種については、オフィスビル勤務率が低いと想定される職種、およびトイレ利用の時間的な制約があると想定される職種を除いた。

## 【調査実施期間】

- ・モニター調査（調査会社登録モニターのうち、有職者に対する調査）：2017年11月10日（金）～20日（月）
- ・トランスジェンダーに対するオープン調査：2017年10月27日（金）～11月26日（日）

## 【調査実施機関】

- ・調査企画・準備・実施・分析：オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会・株式会社アビス
- ・調査分析実務：株式会社アビス

## 【設問形式・回答者サンプル数についての備考】

- ・全員がすべての設問に回答しているわけではないため、設問により回答者サンプル数が異なる。
- ・単一回答項目：選択肢の合計値が100%となる（ただし、四捨五入による誤差あり）。
- ・複数回答項目：選択肢の合計は100%とならない場合がある。
- ・個別設問の全体サンプル数（n値）は、条件該当者のみの回答となっている設問もあるため、各ページを参照のこと。
- ・個別分析軸のサンプル数（n値）は、対象のみ抽出しているため、合計数は全体と一致しない。
- ・個別分析軸のサンプル数（n値） 30未満は参考値。

ことば	意味
性自認	自分の性別をどう認識しているか？という概念。「心の性別」ということもある。Gender Identityの訳語。
自認する性別	自分自身が認識している性別。男性、女性だけでなく、中性、無性、Xジェンダー、決めたくないなどさまざま。
出生時に付けられた性別	出生時の生物学的な性をもとに判断された性別。男性/女性の二者択一で、日本では出生届をもとに、戸籍や住民票などに記載される。 ※今回の調査では、「出生時の戸籍の性別」を使用。
性別違和	出生時に付けられた性別に対し、不一致・違和感を覚えること。
トランスジェンダー (Transgender)	出生時に付けられた性別と性自認が一致しない人の総称。
シスジェンダー (cis gender)	出生時に付けられた性別と性自認が一致し、それに従って生きる人。トランスジェンダーではない人。
性同一性障害	トランスジェンダーの中でも、性別違和が非常に強く、苦悩する人に対して使われる医学的な「診断名」。Gender Identity Disorder※ (GID) の訳語。 ※2018年6月、世界保健機関 (WHO) は、国際疾病分類の第11回改訂版 (ICD-11) にて精神疾患から除外し、Gender Incongruence に置換えを決定 (日本精神神経学会の仮訳は「性別不合」)。2019年5月正式承認。
Xジェンダー (X-gender)	出生時に付けられた性別にかかわらず、性自認が男性/女性に二分できない人、男女の枠にとられない性のあり方の人。性自認は中性や、男女どちらにも属さない無性、どちらにも属する両性など、さまざま。
FTM (Female To Male)	出生時に付けられた性別は女性だが、性自認 (心の性別) は男性である人。トランス男性ともいう。
MTF (Male To Female)	出生時に付けられた性別は男性だが、性自認 (心の性別) は女性である人。トランス女性ともいう。
FTX (Female To X-gender)	出生時に付けられた性別が女性である、Xジェンダー。
MTX (Male To X-gender)	出生時に付けられた性別が男性である、Xジェンダー。
自認する性別のトイレ	自分自身が認識している性別のトイレのこと。男性用トイレまたは女性用トイレ。ただし、「Xジェンダー用トイレ」はない。
出生時戸籍性別のトイレ	出生時に付けられた戸籍の性別のトイレのこと。男性用トイレまたは女性用トイレ。
性別不問のトイレ	男女共用トイレなど、性別を限定しないトイレのこと。
LGBT (エルジービーティー)	レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダーそれぞれの英語の頭文字を組み合わせたことばで、性的マイノリティ (性的少数者) の総称のひとつ。LGBは性的指向 (どのような性別の人を好きになるか/ならないか、ということ。) に関するマイノリティ、Tは性自認に関するマイノリティ。
SOGI (ソジ または ソギ)	性的指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender Identity) の頭文字を組み合わせたことば。性的指向 (SO) や性自認 (GI) は、すべての人に関わる属性。

- 1) 池田官司 2013.「性同一性障害当事者数の推計」『産婦人科の実際』 62: pp.2105-2109.
- 2) 大島義孝・佐藤俊樹 2016.「性別違和の受診状況と人口割合」『こころの科学』 189: pp.28-32.
- 3) 佐藤俊樹・齋藤利和ほか 2014.「『性同一性障害に関する委員会』による性同一性障害症例数と国内性別適合手術例数の推定調査」『GID(性同一性障害)学会雑誌』 7: pp.73-75.
- 4) 寺原真希子編集代表、弁護士法人東京表参道法律事務所編著 2018.  
「自認する性別に基づくトイレ・更衣室利用の可否」『ケーススタディ職場のLGBT』 ぎょうせい pp.84-88.
- 5) 永野靖 2018.「事例紹介：経産省事件（性同一性障害者の職場における処遇）」『ジェンダーと法』 No.15: pp.132-136.
- 6) 日本労働組合連合会 2016.「LGBTに関する職場の意識調査 報道発表資料」  
<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf>
- 7) 針間克己 2017.「『性同一性障害に関する委員会』による性別違和が主訴の症例数と国内外性別適合手術例数の推定調査 第2回」『GID (性同一性障害)学会雑誌』 10: pp.145-146.
- 8) 東優子 2016.「トランスジェンダー概念と脱病理化をめぐる動向」『こころの科学』 189 : pp.66-72.
- 9) 東優子 2018.「トランスジェンダーの医療と人権」『ジェンダーと法』 No.15: pp.120-131.
- 10) 柳沢正和、村木真紀、後藤純一 2015.『職場のLGBT読本』実務教育出版
- 11) 株式会社LIXIL・NPO法人虹色ダイバーシティ 2016.『性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査結果』  
[https://newsrelease.lixil.co.jp/user\\_images/2016/pdf/nr0408\\_01\\_01.pdf](https://newsrelease.lixil.co.jp/user_images/2016/pdf/nr0408_01_01.pdf)
- 12) Health Policy Project, Asia Pacific Transgender Network, United Nations Development Programme. 2015.  
*Blueprint for the Provision of Comprehensive Care for Trans People and Trans Communities.*  
Washington, DC: Futures Group, Health Policy Project.

## 補足資料：国内調査におけるトランスジェンダーの構成比、割合について

前ページの参考文献におけるトランスジェンダーの構成比および割合については、下記のとおり

- ・参考文献 1) : 性同一性障害の受診者数 全国で推定約4万6千人
- ・参考文献 3) : 2012年末までの国内医療機関受診者数合計は15,105例。  
FTM : MTFの構成比は1.83 : 1 (FTM64.7%、MTF35.3%)  
(日本精神神経学会「性同一性障害に関する委員会」による、性同一性障害・性別違和の受診者が多数いると推測される機関への調査 ; 7)も同様)
- ・参考文献 7) : 2015年末までの国内医療機関の受診者数合計22,435例のうち、FTM 14,747例 (65.7%)、MFT 7,688例 (34.3%)  
診断書数合計4671例のうち、性別不明813例を除き、FTM 2,929例 (75.9%)、MTF 929例 (24.1%)
- ・参考文献 11) : 出生時戸籍性別が女性のトランスジェンダー FTM・FTX : 62.5% (n270)  
出生時戸籍性別が男性のトランスジェンダー MTF・MTX : 37.5% (n162)  
FTM、MTFに限定した構成は、FTM 54.7% (n128)、MTF 45.2% (n106)

# オフィストイレのオールジェンダー利用に関する意識調査 報告書（公開用資料）

Public Report on the “2017 Study of Attitudes Regarding Office Restrooms for All-Gender Use”

---

2019年5月31日 第1版第1刷発行

2020年11月10日 第1版第11刷発行

編集・発行 —— オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会

Research Group on Office Restrooms for All-Gender Use  
(Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)

〒920-1192 金沢市角間町  
金沢大学 人文学類 岩本研究室内

無断転載禁止 ©オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会（金沢大学、コマニー、LIXIL）2018



